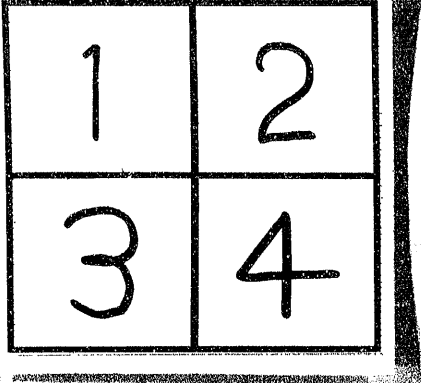


分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

0670
0671
0672
0673

(第三章 外五項参照)

海軍海図第二五三號ト合尺夜

結氷面ヲ示ス



全南流ヲ鳥蘇利島ニ至ルモスナラズ
海峡航路海面ニ積ル氷力ニ及ビ風多ク
砕氷船ニテ砕カレシムル氷力ニ及ビ鳥蘇利島
吹キ出サシムル砕氷船トナリシモ今夜
イ風乃モ強クトナリ結果東部ニ積
厚サハ厚シク時々薄氷帯ト化セリ。

實際ニ自働車隊ノ往行路

自働車隊ノ復路

五. *Chongg'ai River* 沖無氷帯以南ニ於テ海面ノ結氷状況ハ
十日前後ニ時々 *Shkade* 半島南端砲台ノ上ヨリ望見シタリ

北流ヲ示シタリ(十四、十五日ノモノト大差ナシト信ス) 然レモ
無氷帯ノ存在ヲ見タリ。

六. 鳥蘇利島東部ノ結氷セシ見タリ其西部ノ結氷
ヲ認ムル者波ヲ見タリ(十日前後ニ時々望見)

七. 赤宮船一昨午赤宮下向航テ自働車隊ノ
*Slavimskii Bay*ニ至リテ通過セリト云フ。



(第三卷 水五項 参考)

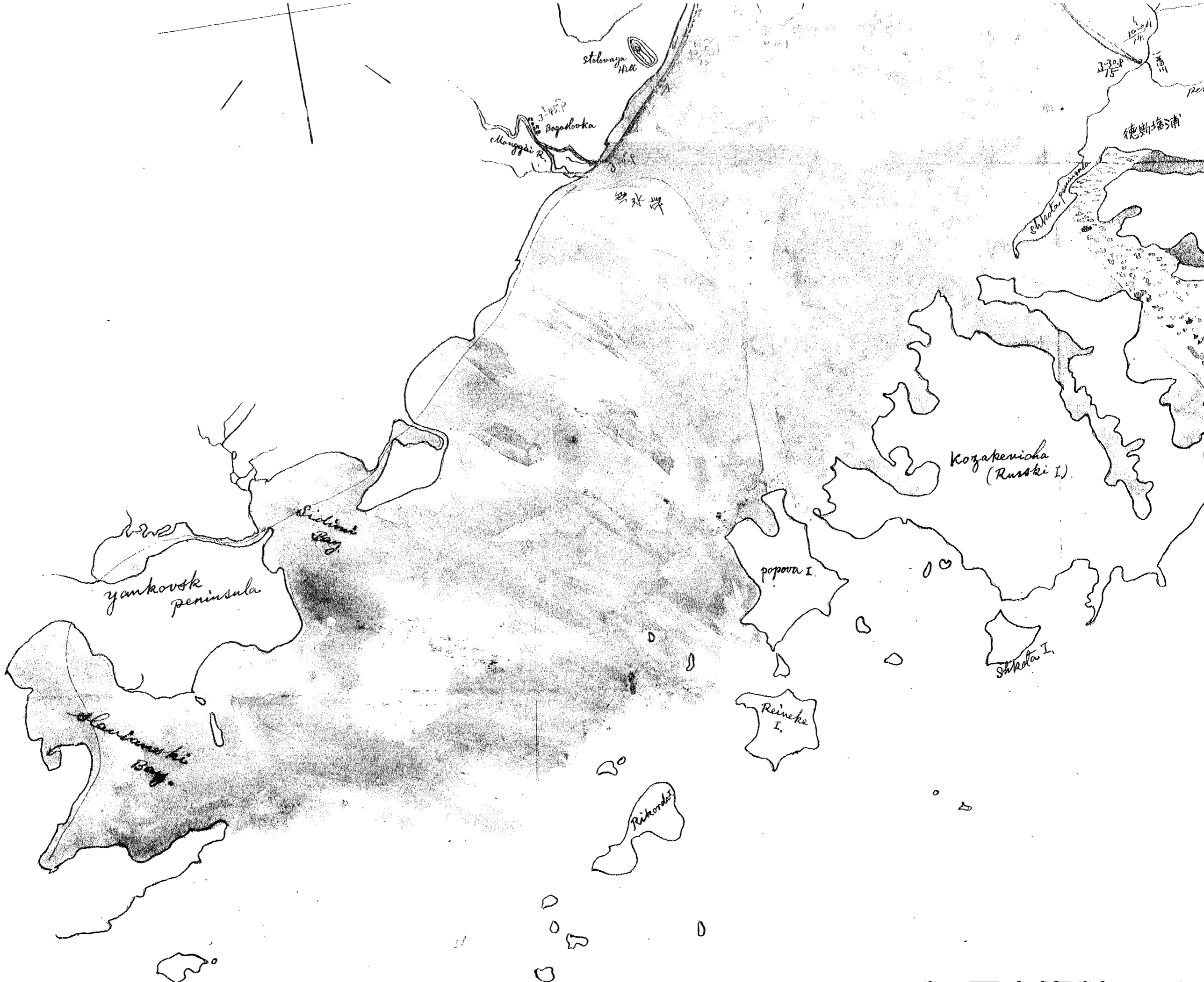
海軍海図部との協同による

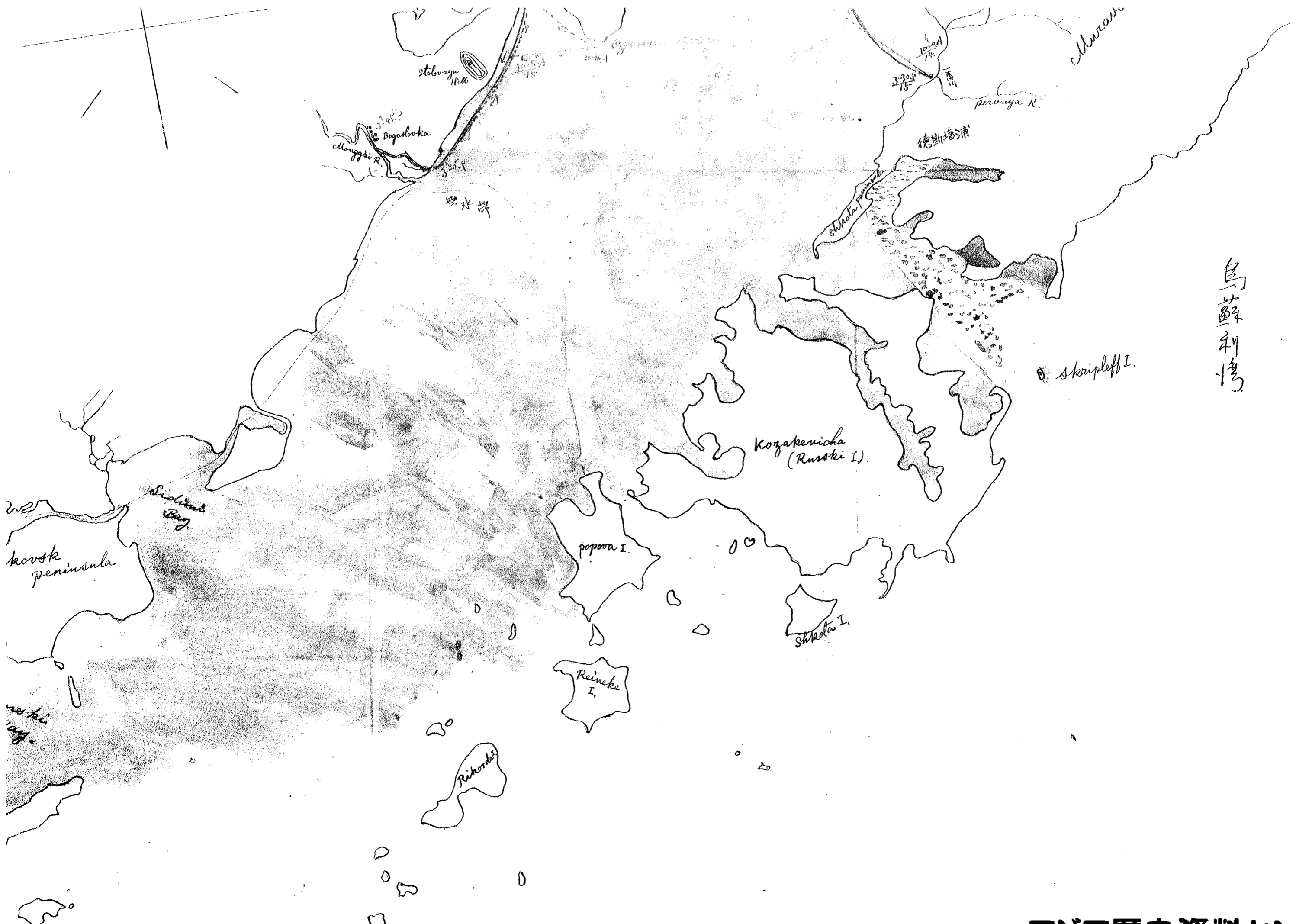
結氷面を示す

全南流より島嶼利瑪... 東ホスホス
 海峡航路海面... 箱七の力ニ... 北
 砕氷船... 砕カレタ... 氷塊... 島嶼...
 吹キ出サレ... 砕氷船... トナリシ... 合...
 夕風... 砕氷船... トナリシ... 結果... 十分
 食サ... 砕氷船... トナリシ... 他セリ。

實際終... 自働車隊... 往行路

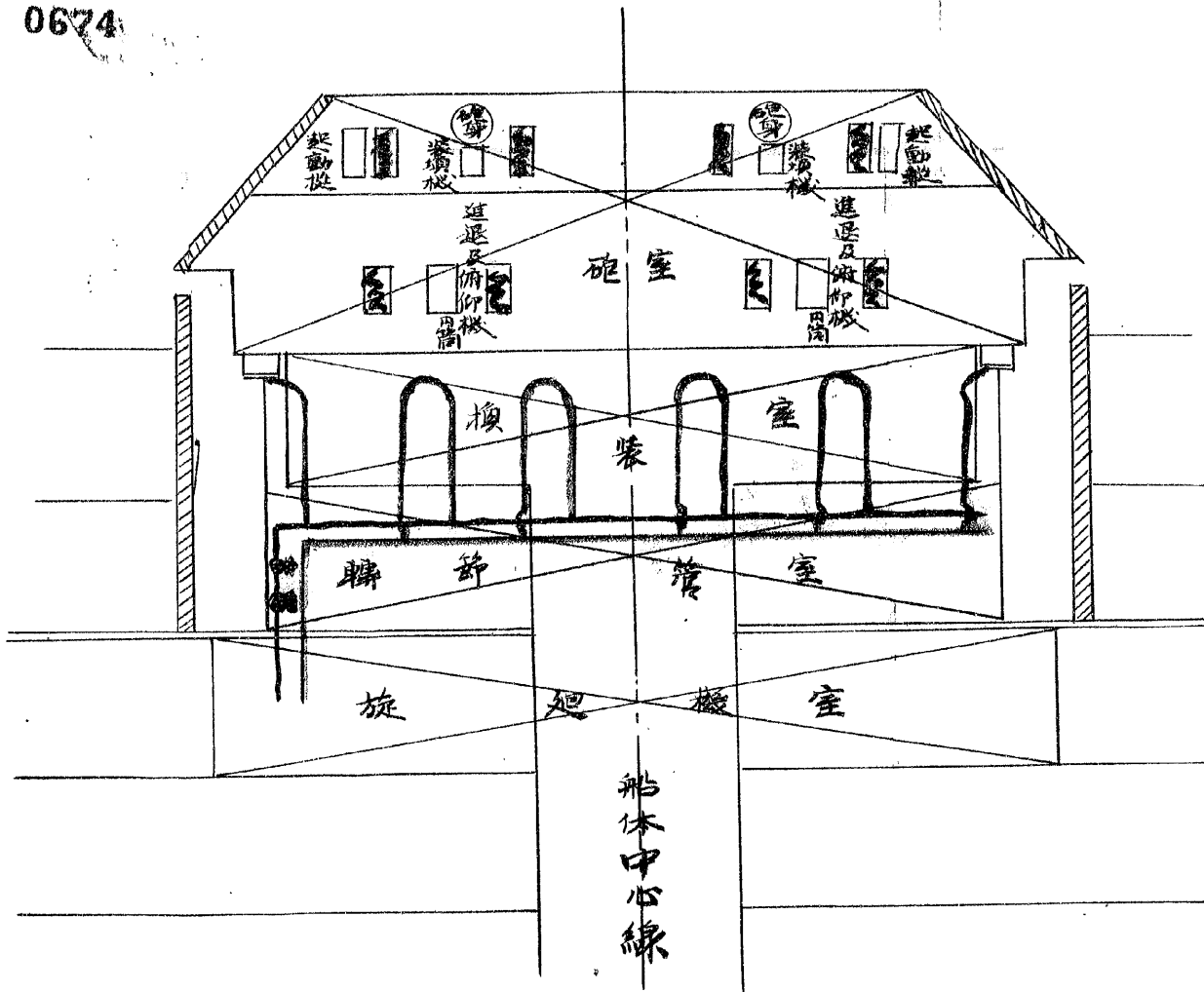






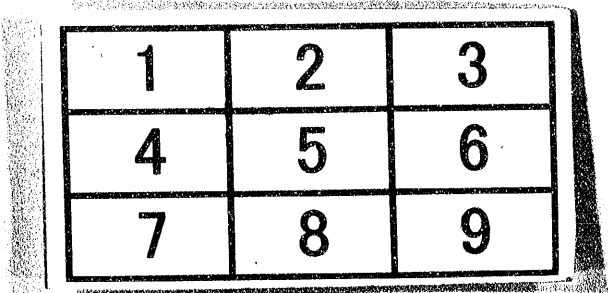
島蘇利博

0674



凡		例					
!	多	0	△	♀	8	♀	!
蒸気放熱管	電気放熱管	蒸気放熱器	嘴	安全弁	減壓弁	塞止弁	蒸気排出管

分割撮影ターゲット

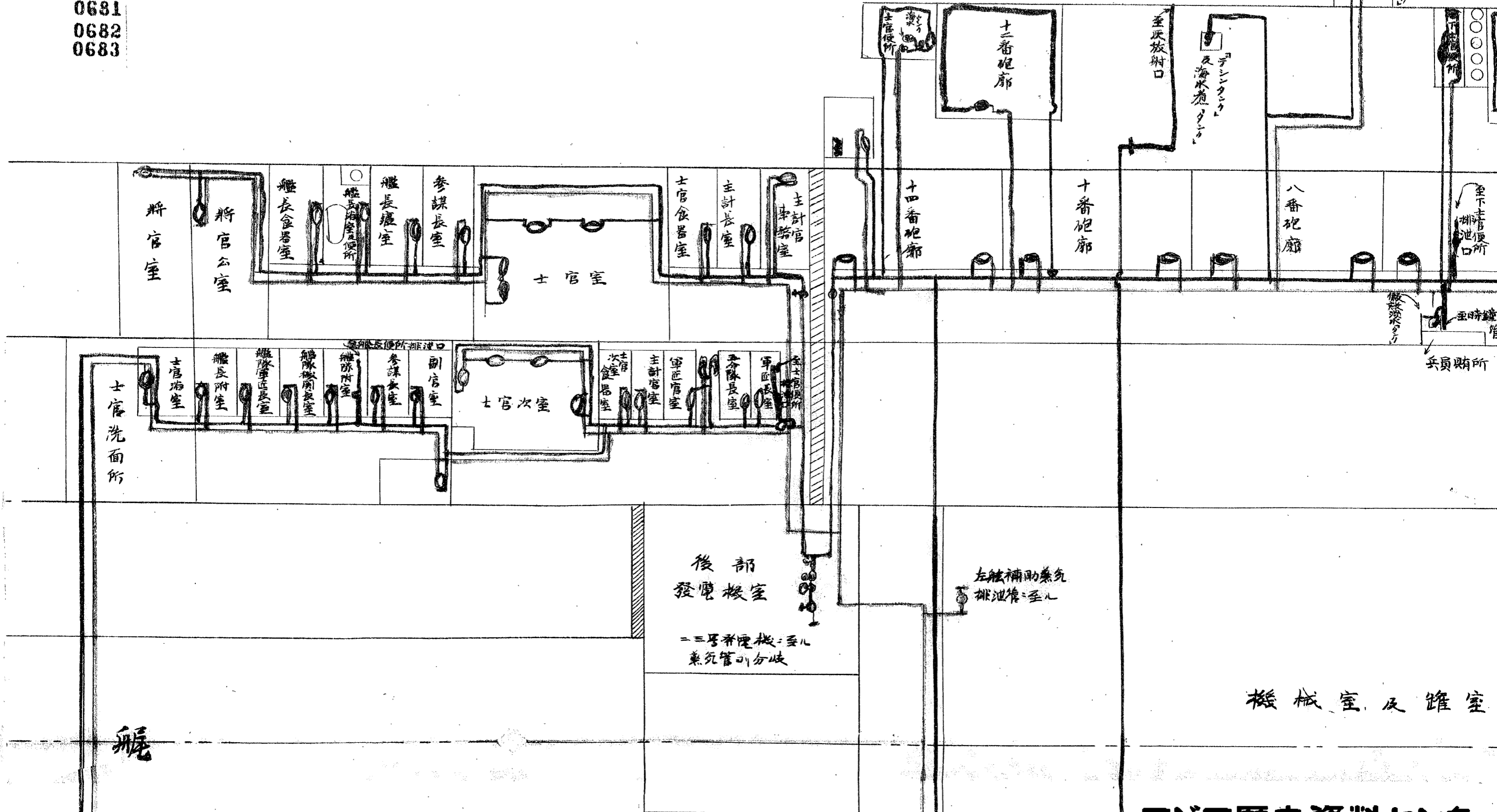
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0675
 0676
 0677
 0678
 0679
 0680
 0681
 0682
 0683

左舷

海図室

淡水ポンプ



將官室

將官公室

艦長食器室

艦長居室

艦長浴室及便所

參謀長室

士官室

士官食器室

主計長室

主計官

十二番砲廓

十四番砲廓

十番砲廓

八番砲庫

士官洗面所

士官浴室

艦長附室

艦隊附室

艦隊附室

參謀長室

副官室

士官次室

士官食器室

主計官室

軍醫官室

軍醫長室

軍醫長室

後部發電機室

二三号汽機室
 蒸気管分岐

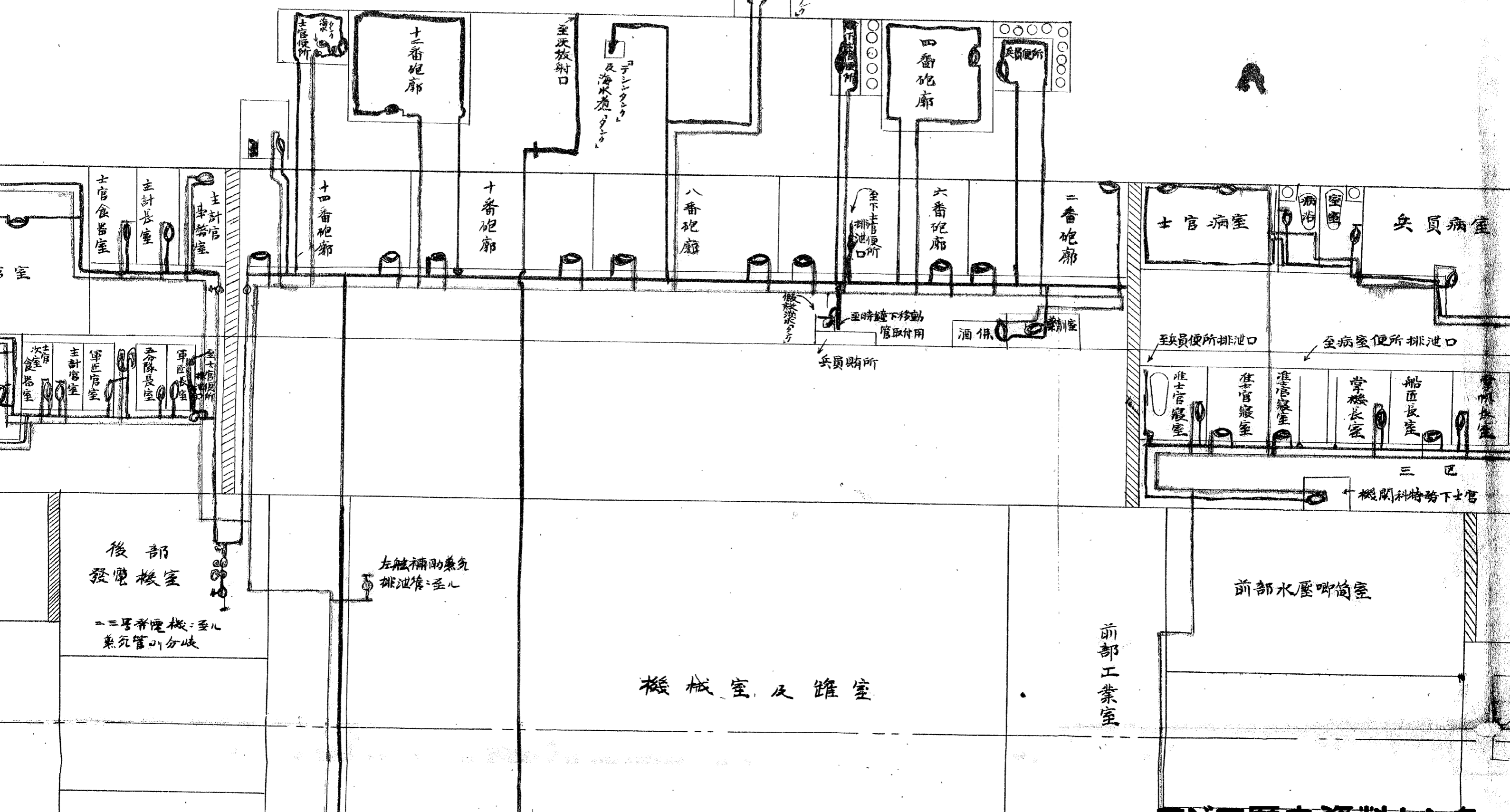
左舷補助蒸気排気管

機械室及籠室

艦

軍艦三笠新設暖

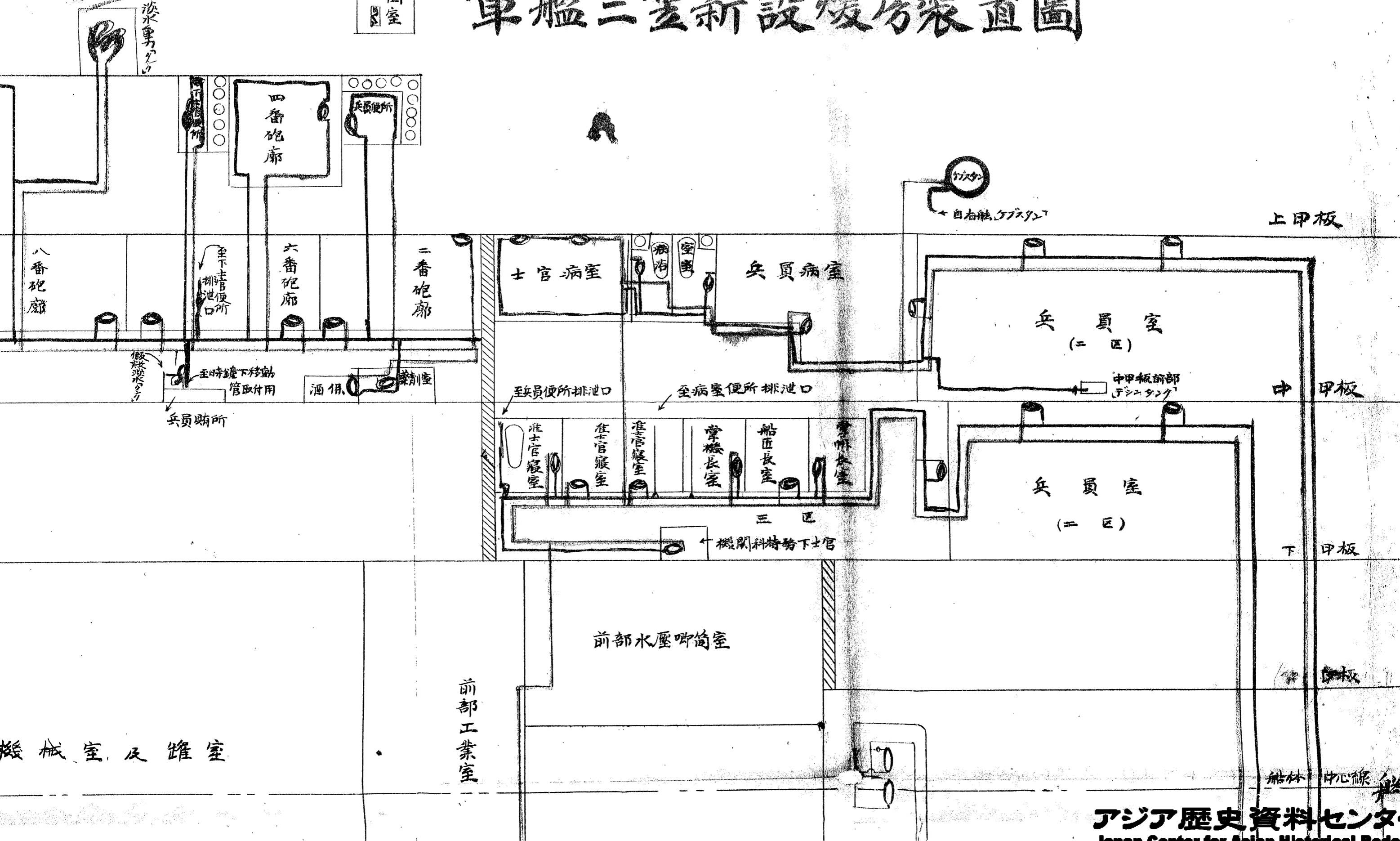
左舷

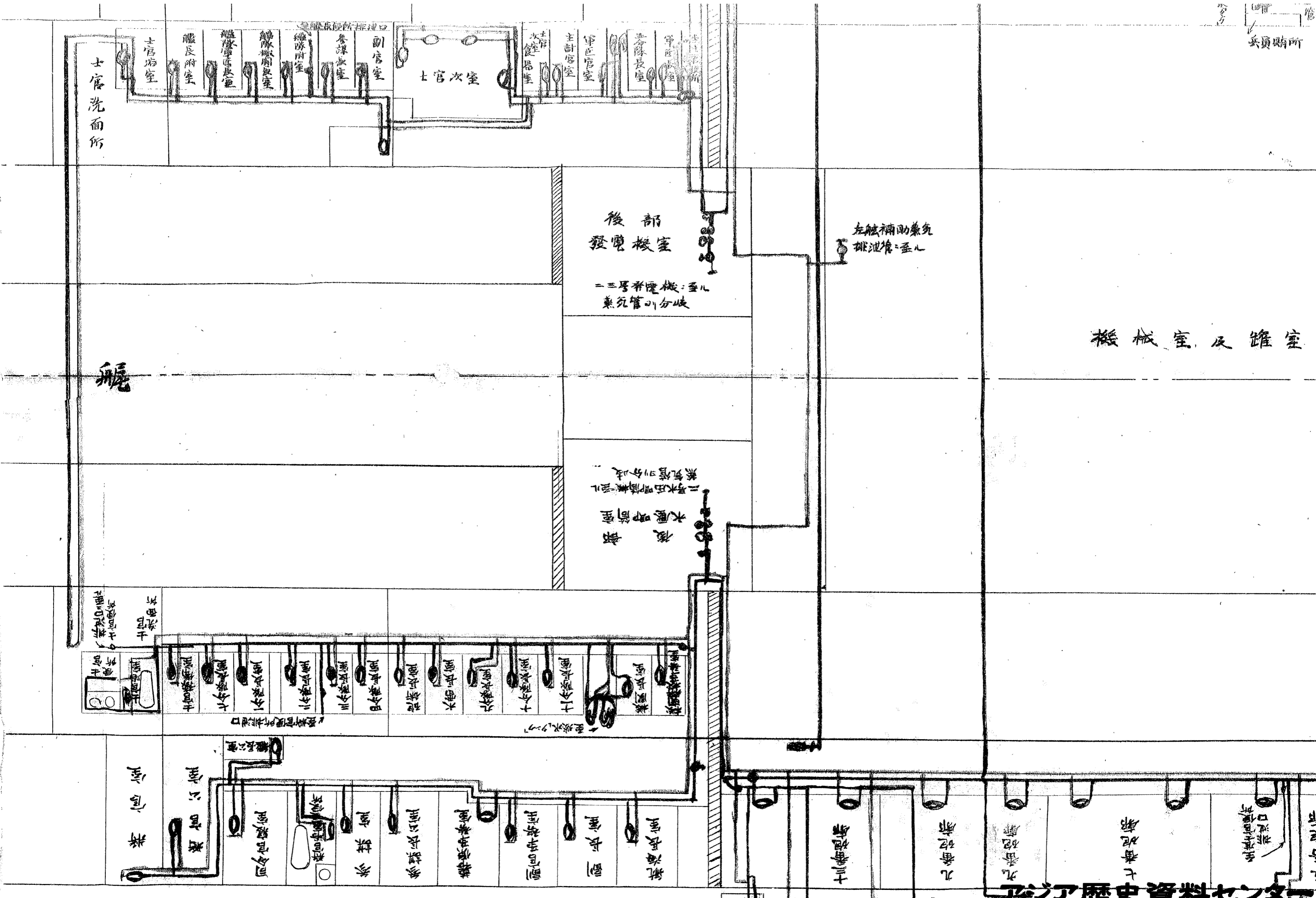


左舷

海図室

軍艦三笠新設暖房裝置圖



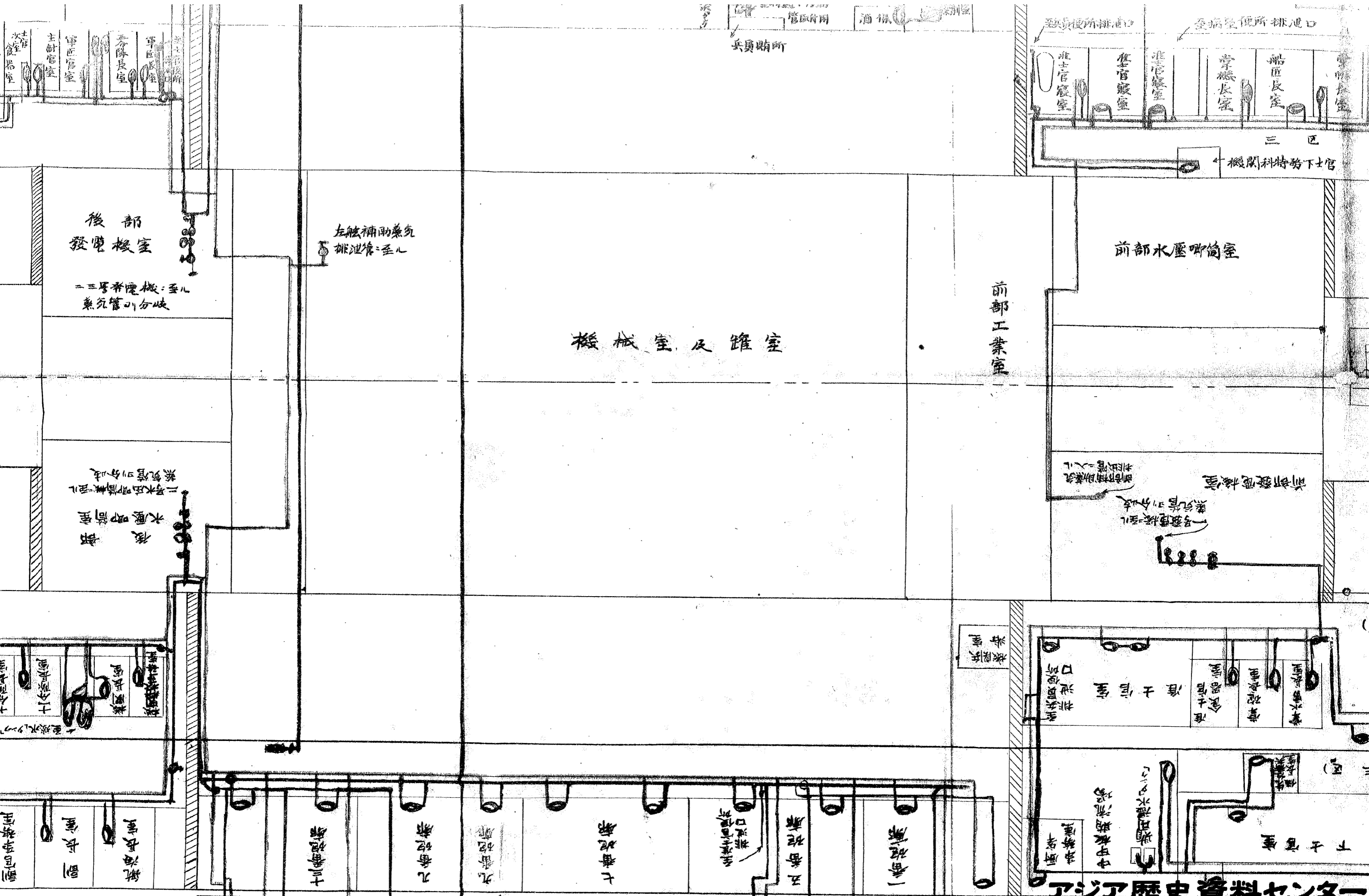


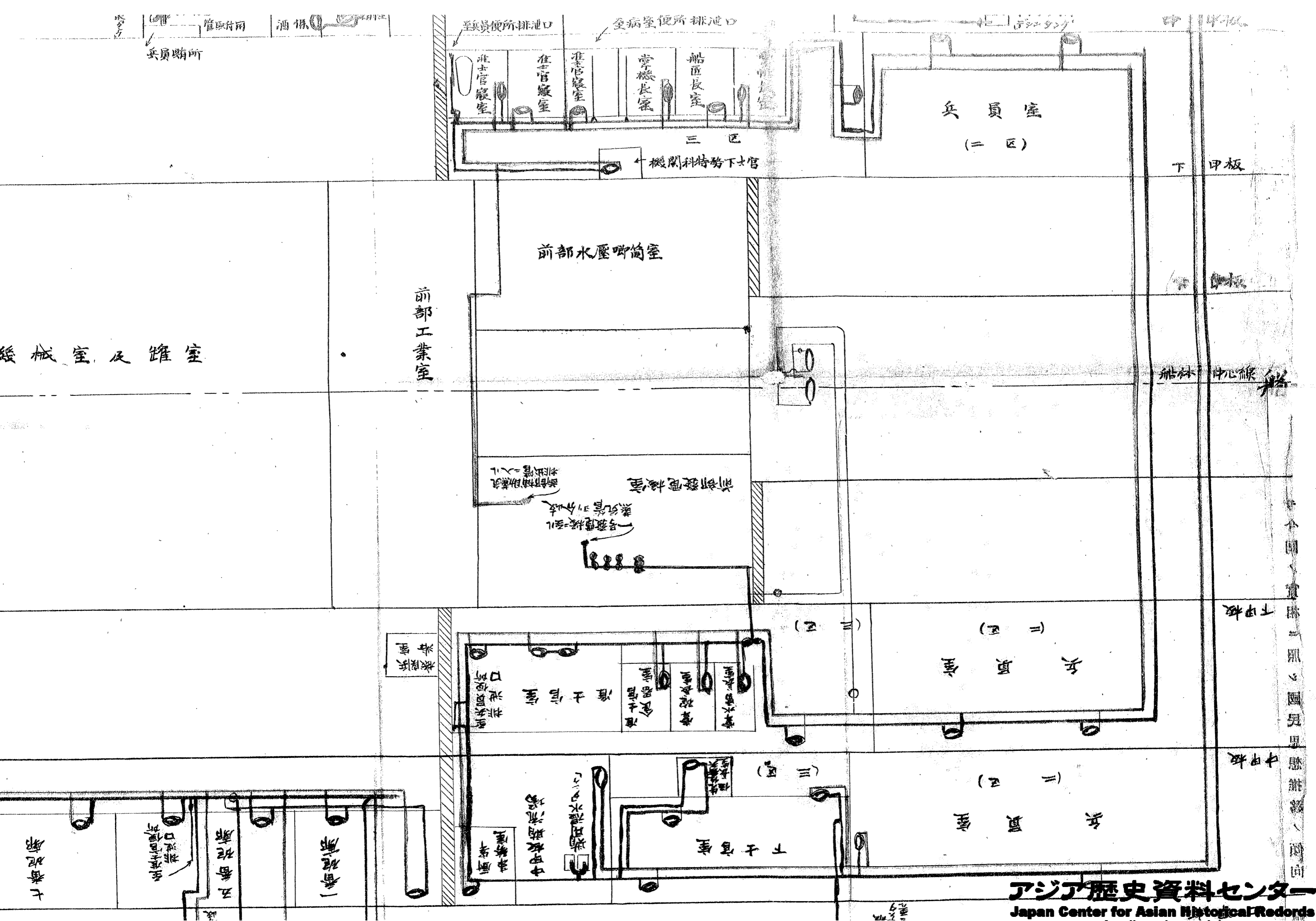
機械室及鐘室

後部
發電機室
一二層發電機至儿
蒸汽管の分岐

左舷補助蒸汽機
排水機至儿

後部大廳
二層水出量調節機
蒸汽管の分岐





機室及罐室

前部工業室

前部水壓唧筒室

前部發電機室
 1号發電機出口
 熱氣管分支
 前部補助蒸氣
 排出管入口

蒸氣室

中甲板水壓唧筒室
 下甲板水壓唧筒室
 下士官室

五番水壓唧筒室

一號水壓唧筒室

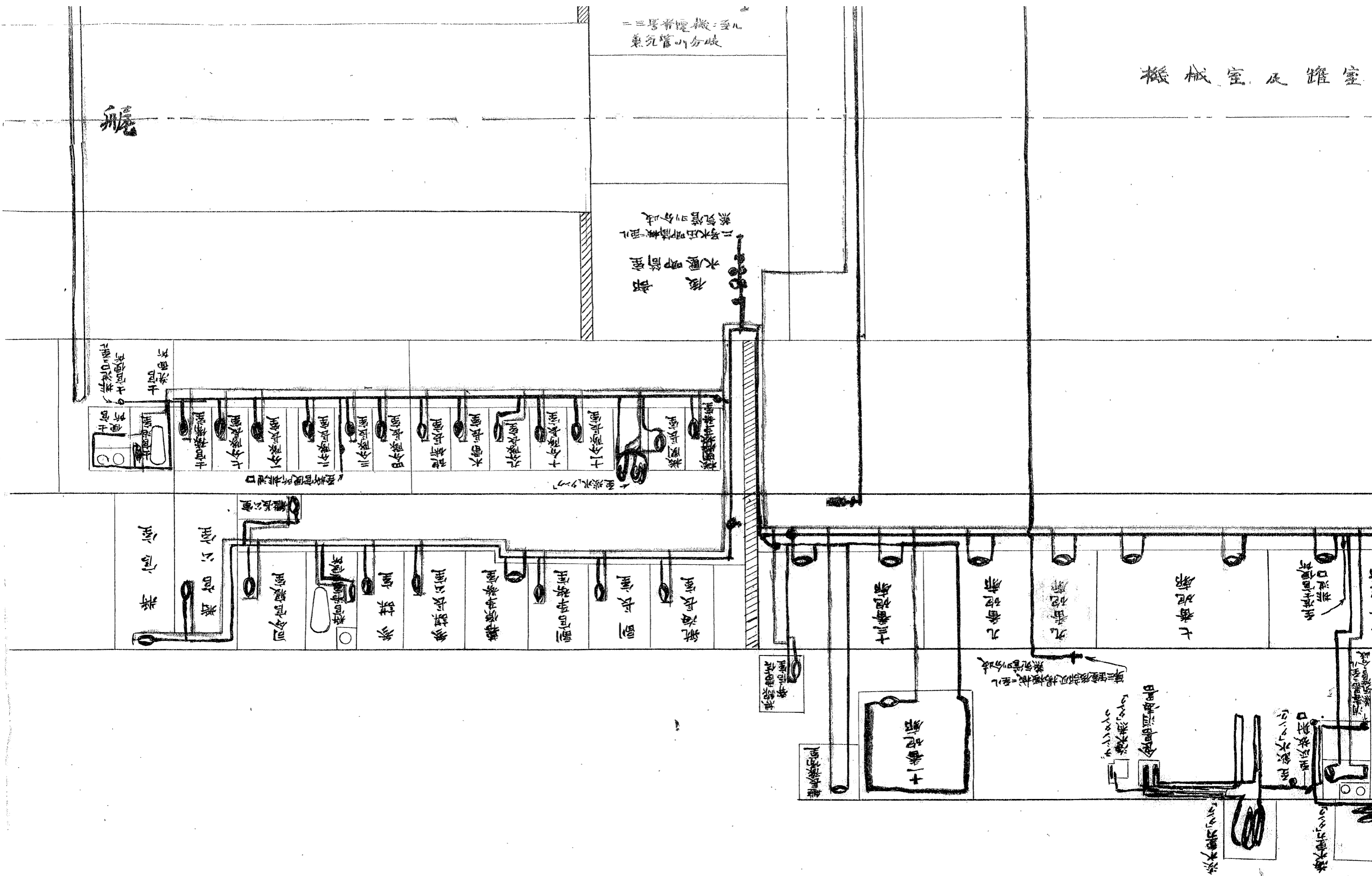
十號水壓唧筒室

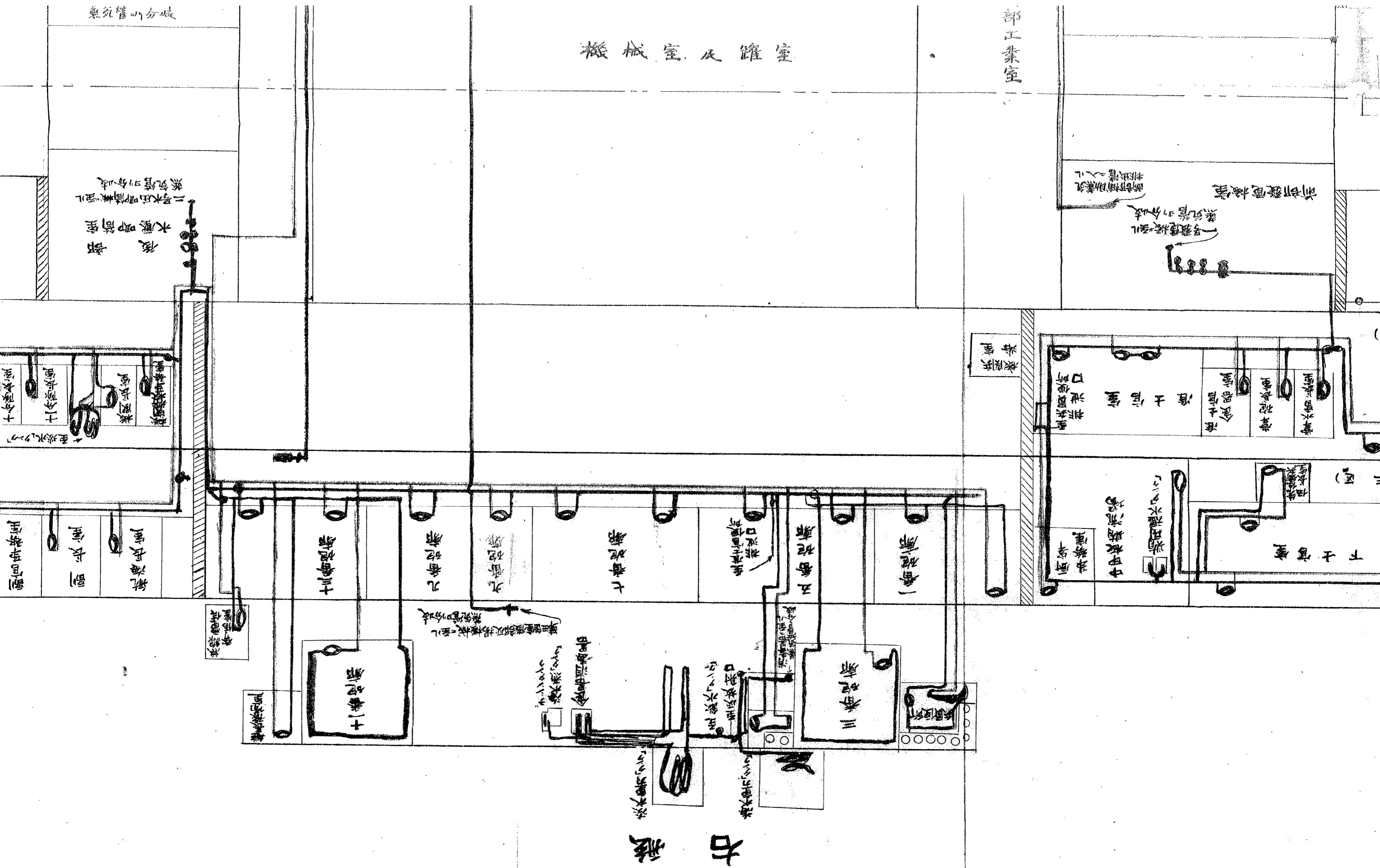
機 械 室 及 罐 室

二層者電機=至儿
蒸気管の分岐

蒸気管の分岐
二層者電機=至儿
大綱号取册
後
機

機





機械室及雑室

部工業室

新設電機室
 電機補助機
 蒸気管の分岐

新設機一
 新設機二
 新設機三
 新設機四
 新設機五
 新設機六
 新設機七
 新設機八
 新設機九
 新設機十
 新設機十一

右舷

蒸気管の分岐

後部
 大機室
 二号水出管機室上
 蒸気管の分岐

洗面
 便所
 湯
 爐火

洗面
 便所
 湯
 爐火

新設機十

新設機三

蒸気管の分岐
 新設機及機械室上

洗面
 便所

洗面
 便所

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

湯
 爐火

洗面
 便所

第八章 教育作業

冬營中動モスレバ萎靡巡ヤントスル志氣ヲ振作シ教育ヲ徹底ヤシムルハ明日ノ戦闘ニ即應ヤントスル軍隊ノ將ニ努カスヘキ所ナリ然レドモ劇レザル軍隊ヲ迄テ極寒ニ曝露セシメ冬營ノ初期ニ於テ已ニ多ク教ノ患者ヲ出スガ如キハ策ヲ得タルテニアラス 茲ニ於テ通課作業ヲ尤記ノ如クテ定シ主眼ヲ基礎教育ノ完成ニ置キ併セテ之ガ應用ト志氣振作ヲ適當ナラシメタリ

木	水	火	月	曜			
全	全	配置(又補修)教育	諸點檢	午	前		
右	右						
全	全	普 通 學	部 署 教 練	午	後		
右	右						
右	右						

日	金	船体兵器概閲支	全	上
	土	火梯除防火教練	船体兵器概閲支	
		武術競技	休	養

右ノ計劃ハ概不適當ニシテ艦ノ行動任務上別紙作業實施表
ノ如ク變更ノ止ムナキニ至リシモ畧予期自働ヲ達シ各科基礎教
育確立スルト共ニ之ガ應用モ三月解氷ノ時機於テ山滑ノ域ニ達シ
諸教練治氣ヲ帯ルニ至リ唯普通學ノ教育ハ多大ノ時間ト
努力ヲ之ニ措マカリシ南ヲズ其成果顯著ナラズ本件ハ後令期待
ノ過大ナリシニ因ルト雖モ大ニ遺憾トスル所ナリ

0685

作業實施表

十二月

日	曜	午	前	午	後	最 後 備 考
一	水	配 置 教 育	普 通 學	六〇		
二	木	被 服 洗 濯 置 教 育	倉 庫 雜 業 甲 級 東 員 考 核 普 通 學	三五		
三	金	被 服 洗 濯 船 體 兵 器 檢 閱 手 入	普 通 學	八〇		
四	土	火 掃 除 防 火 教 練	雜 業 甲 級 東 員 考 核 普 通 學	九五		膠 州 橋 付 商 入
五	日	合 隊 對 抗 綱 引 競 技	中 校 陸 上 教 育	一三五		
六	月	被 服 洗 濯 合 隊 長 講 話	部 署 教 練	一三〇		
七	火	被 服 洗 濯 配 置 教 育	普 通 學	一四〇		
八	水	冬 右	冬 右	一六五		
九	木	船 體 兵 器 檢 閱 手 入	普 通 教 練	一五五		
一〇	金	被 服 洗 濯 船 體 兵 器 檢 閱 手 入	普 通 學	九五		

0686

二 三	二 二	二 一	二 〇	一 九	一 八	一 七	一 六	一 五	一 四	一 三	一 二	一 一
水	水	火	操	日	土	金	木	水	火	月	日	土
配 置 教 育	被服洗濯 所置教育	警急陸戰隊行軍 船業	司令官巡視	講話	大掃院 防火教練	令 右	被服洗濯 所外兵器檢閲手入	川原中將迎送式	雑業 了り下ホーシ準備	被服洗濯 所部長補掃	銃劍術分隊對抗試合	火掃院防火教練
夜勤 教 練	善 通 学	令 上	部 署 教 練	半 夜 陸 上 散 歩	船外兵器檢閲手入 半 夜 陸 上 散 歩	善 通 学	善 通 学 照 射 教 練	善 通 学	雑業 令 上 撤 去	中村司令官迎送式	半 夜 陸 上 散 歩	船外兵器檢閲手入 半 夜 陸 上 散 歩
一 九 五	一 九 〇	一 三 〇	一 三 〇	一 〇 五	一 〇	六 〇	六 〇	六 〇	一 〇	一 〇 五	一 〇 〇	四 〇
	釣 床 交 換											

0687

二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一
金	土	日	月	火	水	木	金
船体兵器機関手入	火掃除 火教練	休業 半陸上散歩	人員調査 勅諭捧讀	船体兵器機関手入	被服洗濯 船体兵器機関手入	全 右	火掃除
全 上	船体兵器機関手入 半陸上散歩	全 上	部署教練	全 上	船体兵器機関手入	全 右	船長訓示 休業
一九五	一六五	一〇〇	一三〇	一三五	一六五	一八五	一九五
四布類洗濯							
一	二	三	四	五	六	七	八
土	日	月	火	水	木	金	土
運糧式、御寫真、講義	休業 半陸上散歩	休業 半陸上散歩	武術始末(武術總試合)				
一四五	一七五	一九〇	一八〇				

0688

一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五
月	日	土	金	水	水	火	月	日	土	金	水	水
炭水補給	石炭塔載 糧食塔載	被服洗濯 雜業	石炭塔載出港準備	石炭塔載出動準備	水雷術補修教育	配置教育	勅隊吳換 勅隊操練	防火教練 半宿陸上散歩	大掃尾 防火教練	左 右	被服洗濯 普通女子	相撲競技
出港	全上	雜業 甲板男兵名簿	出港	全上	普通學 雜業	雜業	部署教練	全上 半宿陸上散歩	全上 右	飛行兵器散同手入	部署教練	全右
五〇	二〇	七五	一八〇	一六〇	一七〇	一五〇	一六〇	二一五	三一〇	一六〇	一三〇	一六〇
第四回三機着 手防機體	小樽六港 秋州機付				全右	那香道三機着 性射						

0689

三八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇
火	水	水	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
雜業	全右	被服洗濯 バリエイション 被服洗濯 被服洗濯	被服洗濯 被服洗濯	入港 雜業	載炭	火掃除	雜業	被服洗濯 雜業	飛砲研究射撃	雜業	火掃除 防炎放線	半陸上散歩
全上	実践準備作業	バリエイション 救助作業	雜業	載炭準備	半陸上陸	雜業	全上	全上	全上	全上	半陸上散歩	全上
九五	九〇	八五	八〇	七五	七〇	六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五
浮三四三種混合 平防機機	バリエイション 接近	小樽之向	二〇	七〇 小樽入港	六五	七五 小樽出港	五〇	四〇	三〇 バリエイション 後物	二六 浦塩入港	一四	一五

0690

一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	日	二	三
木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	曜	二	一
雜業	水雷船補修教育	配置教育	航海科補修教育	氷上運動會	防火掃除	被服洗濯	航海科補修教育	水雷船補修教育	被服洗濯	分隊長分隊員模範	午前	船体模範員暑手入
雜業	普通學	配置教育	航海科補修教育	氷上運動會	防火掃除	被服洗濯	航海科補修教育	水雷船補修教育	被服洗濯	分隊長分隊員模範	午後	船体模範員暑手入
一三〇	一〇〇	一五五	一五〇	一三〇	一七〇	二〇〇	一七〇	一三五	一三五	八五	源下	八〇
							月例原簿検査				備考	

0691

二五	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
載炭	石炭、糧食、炭載	雜業、普通學	分隊對抗相撲競技	雜業	配置教育	航海術補習教育	砲術補習教育 被服洗習 被服洗習 砲術補習教育	被服洗習 砲術補習教育	人員調查	砲術補習教育	防火教練	滿洲飾遺傳式 御真影奉拜禮砲
全上	全上	全上	全上	雜業 半宿陸上散步	普通學	全右	全右	雜業 普通學	部署教練	雜業	半宿陸上散步	半宿陸上散步
									一三〇	一三〇	一四〇	一三〇

膠州艦隊
半宿陸上散步
砲術補習教育

洗滌的房室
水機
洗滌的房室

0692

備考

普通學ノ實施ハ淋番直ノミトシ當直ハ
 雜業ヲ配セリ

二四	水	戴炭 被服洗濯、火掃席	全上 飛内手入 甲辰東男実積 半松陸上散歩 核橋作業 半松陸上散歩 休業 研辨補修教育 雜業
二五	金	被服洗濯 防火散練	
二六	土	被服洗濯 侍從武官巡視準備	
二七	日	侍從武官巡視	
二八	月	万石考模 勅諭抄讀	

深淵樓待方

0693

第九章

一、破冰兼交通用汽船

冬營中本艦周圍ノ破冰及交通ニ使役スルノ例年第五戰隊司令部ガ八坂商會ヨリ備入ル「タガボート」ハ船体ノ強度馬力何レモ物足ラズ氷厚十四五糎ナレト至ラバ運輸部汽船

ヲ煩ハスヲ常トス

海軍専用汽船付今ヨリ考慮シ置クノ要アリ

二、誤樂用器具

冬營中本艦ノ爲メ左記誤樂用器具ヲ供用スルノ要アリ

(イ) スケート用具

乗員ノ四分一ノ氷滑練習ノタメ

(ロ) 軍樂器

一隊用一組シ、シームパンダヨリ編制シ置ク要多シ

(ハ) 活動寫真機

一 櫛

三、防寒具

防寒具不足の計科報告、如し特ニ特製防寒帽、総員ニ具
づ給具ニ必要アリ

0695

軍務局

大正十年十一月一日

第六戰隊司令官竹内重利

海軍次官井出謙治殿

當方面米人關スル情報件

一 九師團情報

米國ハ今回イルクイツク。知多、哈市、武市、浦塩ノ五ヶ所ニ宣傳部ヲ設置スルニ決シ現ニ浦塩、スエトランス、カヤ、街、クンスト、西隣ニ建築中ナル建物ハ猶大人之カ經營者ニシテ商店兼活動寫眞會館ナリト稱スルモ、米國宣傳部事務所ニ充當スル計漁ニシテ該店員ニハ米自將校並謀報勤務者等ヲ

0696

八

採用を豫定ナリ其ノ目的ハ極東ニ於ケル日本ノ政策
並反日本宣傳ヲ露人及鮮人ニ爲スニ在リト

以上ノ情報ハ露國警務部ヨリ閣知法當部表偵直
接偵知シタル如ク綜合セルモノニシテ米人ノ對西北利政
策上有り得ヘキ事ト信ス

ニ、廣兵隊情報

ルスキ、島嶼線電信所勤務米水兵ハ新ニ交代セラレ
ヘシト云フ。右理由トシテ從來ノ水兵ハ共產虎ト關係シ
又同所受信ニ接ル秘密通信ノ内容或ハ重要機密事
項等ヲ共產虎員ニ漏洩シアリシモノト目セラレシニ據ルト
云フ。尚彼等ハ裁判ニ附セラルヘシト

三、前項ニ關シ米艦「オルバー」一士官ハ我招宴席上抗命
及軍紀紊乱ノ事由ニ依リ既ニ令所勤務員ヲ本艦

西村純

0697

三 選ニ審問ノタメ目下艦内ニ軍法會議開催中ナ
リト決シタルニ照シ事實確實ナリト認ム

四 當地デリーニエニスニ依シ最近米國商工局代表者

Meagerナルモ著浦マリ別政治的使命ヲ有セサルニ
經濟的見地ヨリ西比利ヲ調査シ米國ト通商恢復ヲ

ナセムルヲ任トス即チ如何ニ米國ノ資本ヲ此地ニ利用
スキヤヲ知ラントスルニ在リ又利權獲得ニ關シ今人ハ右

ニ種ノ政治問題ニシテ正式政府ナキ土地ニ於テカ
ル問題ヲ商議スルニトハ不可能ナラスヤト語リタル旨ヲ

記載ス

ナルハニー船長ノ実話ニヨレハマイヤーハ獨逸系米
人大資本家ニシテ投資事業研究中最近親シ
ク會見ニタリト

右為参考報告ス

終

西本堂

0699

海軍

二四

大正十年十一月二十日

田子

軍務局一課
十一月廿六

副官

軍務局

軍令部

供覽

今村海軍省副官代理
南郷海軍司令部副官 殿

駐浦米國領事渡日関スル件

昨二十日夕米國領事夫人ノ接客日ニテ訪問ノ際兼知
スル如ク依リ領事ハ休養ノ為ト称シ本日發鳳山便ニ依
リ渡日可致歸着期日ハ不明ト申居候尚全時頃於領
事館内米艦長領事及米艦謀報主任ノ間ニ何等カ
密議アリタルコト事實ニテ當方面米國ノ活動注目ヲ急
ルニカラサル時節 柄 至モアリ為念
右内 第三班



10. 18. 27
三令軍

0700

供
醫

第...
二六

大正十年十二月五日

第...

重利

軍務局一課
十二月廿八

軍務局

軍令部

十二月二十一日受浦塩特務機關報告「米人ノ西比利及
滿蒙地方ニ對スル經濟的進展」全文別紙ノ通
若為參考報告ス

(別紙添付)

外報先軍令部次長第三艦隊長官(終)

0701

別紙

津特謀第二五四號 政情報告

米ノ西伯利及滿蒙地方ニ對スル經濟的進展

露人及猶太人ヨリ得タル諸情報ヲ摘録セルモノナリ事概不抽
竊的ニテ信賴ノ根據乏シト雖之及ツテ米人ノ既往現在通
スル賤賤ナル施設ヲ合致スルモノナリトモ觀察シ得ヘク將來實
現ハ免モ再目下ヲ數米人カ興味ヲ以テ西伯利及滿蒙地方
ニ試ミツアル計畝企圖ノ頗ル悠大而モ官民一致斯業ニ熱
中スル點ハ吾人日本人ノ為參考價値アリト認メ報告ス

一、米國ノ希望

左ノ兩意義ニ歸著スル如シ

一、西伯利及滿蒙地方ニ先ツ自國ノ經濟的地歩ヲ確立ス

二、日本ノ同一企圖ニ對シ防碍ヲ策シ日本孤立ヲ促進ス

ニ機關

領事、軍事派遣員、鉄道技術會員、赤十字社員、宣傳員、商工團體代表者等、西伯利及滿蒙各地、常住シ及其本國ト往復頻繁ナルコトハ既明周知ノ事實ニテ斯輩ハ國命ニ依リ相互密接ノ連絡ヲ有シ前項米國ノ國策の本旨ニ則リ銳意經濟的地歩ノ進展邁進シツ、アリ。

米國ハ富國ナリ故ニ大資本家ハ政府ト緊密ノ關係ヲ有シ常ニ對外經濟問題ニ一致ノ步調ヲ取ツヤリ隨テ西伯利及滿蒙地方ニ往來スル軍人官吏、鐵道吏員等ノ中、トラスト^トシンゲゲート^ト等ノ推薦指名ニ係ル者多ク斯輩カ其職ノ如何ニ論ナリ能ク營利的合同ノ目的ニ向テ奮斗スル一因實ニ此ニ存ス。

而シテ又此ノ種機關中ニ單ニ米人ノミナラス親米色彩アル

0703

露人(元沿海州臨時政府首班)メドウエーシエフ、如シ特ニ
猶大人(現知事政府華府派遣員)スクウキルスキー、
如シ^{將又コシ}獨逸人(トムスドルフ)ノ如シ、点モ包含スルニ注意セ
サルヘカラス

三、各種機關活動

各機關ノ其所在ニ實演スル活動ハ一般目的範圍ヲ
超越セサル限リ廣汎ナル自由ヲ有ス即チ曩ニ莫斯科ニ
至レル大使「ケイア」ハ赤露的ニ知事領事「ゴルトウキン」
ハ知事流・浦潮領事「マクガウ」ハ浦潮式ニ任意ニ行
動ス之即一見國家政策ナラスシテ突然個人的動作、如
ク觀察セラル、所以ナリ
今此等各機關カ共通シテ各其所在ニ盡粹^作スル事
業ノ一般ヲ畧求セントス

1. 官公諸機關就中地方自治機能及購買組合

親交ヲ求メツアリ

2. 住民特ニ勞力農民ノ歡心ヲ購フニ腐心シアリ

例セハ農具ノ貸典廉賣農事ニ関スル諸般ノ

試驗調査紹介幫助(教師ノ派遣種子肥料

ノ供給等)ニ任シ又特ニ荒廢セ農村ニ對シ牛馬

ヲ貸典スル計画ヲ有シ精神的ニ住民ノ征服ヲ考

案シツアリ

勞働者就中鉄道従業員對スル救恤買収等

ニ既明ノ件ナリ

3. 親米排日宣傳

下層民ニ對スル此種宣傳米人特ニ留意スル所

ニシテ先米國ノ富ヲ標榜シ少量ノ施典施療投

藥等ニ機會ヲ開キテ親米ノ利ヲ説キ排日ヲ暗示ス
活動寫真ハ其最便ナル利器ニシテ赤十字語
學練習所及踊場等ハ主ナル之カ實施場ナリ
然リ米人ハ各々活動ス然レトモ其統一ナキ各個自由ナ
ル言動ハ實ニ米人ノ長所タルト同時ニ露國ノ不安定ナル
現情ト露人ノ特性ニ徴シテ又其短所ナリト見サルヲ得ス
久シキニ涉リ生活難ト政争禍ニ懊惱スル露人ノ眼ニモ
今ヤ吹聴ノミニシテ實現少キ米人ノ此種言動カ同情深
キ真ノ道義心ニ發作スルモノナラスシテ單ニ投機的利己
慾ニ焦慮スルモノナリト見做スニ至レリ
斯クシテ既往米國ノ富ニ憧憬期待シ其任放ノ所為ニ
歸依シタル暗愚賤民モ頃者漸次親米氣分ヲ減却
スル傾向アリ知多政府ト米人トノ關係不良化セル如キ明

0706

此間ノ消息ヲ告白スルモノナリト謂フシ今後ノ西伯利情勢果シテ米人ノ此種活動ニ對シ如何ナル報酬ヲ旅團ラ
スニキヤ注目ニ値ス

四、米人ノ企業ト其現況

ノ港灣ニ對スル著眼

「カムチヤツカ」ノ勞農露國ニ屬シタルハ米國ノ壓迫ニ起
因ス「ワンダール」問題モ亦米國ノ野心ヲ詔ルモノナリ
米國ハ爲シ得レハ「ポトポロス」ニ其海軍根據地ヲ
獲ント欲ス

「オホツク」海ニ於テハ「アーマン」港ニ嚮望シ既往此所及「オ
ホツク」港ヨリ「ヤクーツク」地方ニ向ツテ盛ニ各種日用品ヲ供
給シタルコトアリ當時茶ニ於テ年額ニ萬函ノ多キヲ示ス
而シテ其目的タル同地方ノ豐富ナル天産就中金其他

ノ鑛物及毛皮ノ多量ヲ獲得センカ爲ナリ

韃靼海峡ニ於テハ「キヂ」カヂ「カヂ」両湖ヲ通シテ黑龍江ト東
絡スル運河ヲ開キ函湖ヲ至便ノ泊地ヲラシメントス本計東
ハ當ニ經濟的ノミナラス深キ政治的意義ヲ有スモト見
ルヘク紐育「シチー」銀行ノ資金ヲ以テ露人團體ヲシテ宣
ヲ實施セシメントスルカ如シ

「ニコライスク」ニ對日本策トシテ鉄「パ」ノ市街ヲ新設ス

ヘシト揚言スル米人アリ真偽特ニ其理由ハ不明ナリ

津潮問題ハ米人ノ特別目注視スル要件タリ米國海軍

省代表者「シプ」グラーフ「大尉」外交代表者「エド

ワード」メーソン「シチー」銀行支取人「パークス」

等カ泊地ヲ設備シテ鐵道ト聯絡スルノ必要ヲ條件

トシ「ウーリス」灣及其附近ノ長期租借ヲ「メ」政府及

知多政府ノ西方ニ申込ミタルハ、近キ過去ノ事ニシテ、其
主目的ハ、治外法權地域ノ獲得ニ外ナラサルベシ。

ス。陸上ニ於ケル交通能力ノ著眼

極東ノ脊梁タル東支鐵道ニ執著シテ、更ニ眼ヲ西伯
利全線及烏鉄（蘇城炭礦ヲ含ム）ニ注キ、夙ニ又思フ
濱黑線ノ新設ニ寄セツアル米人カ、浦潮ルスキ「嶋
ニ今尚無線電信ヲ確保スル既明周知ノ事實アル以外、左
記交通線ニ深キ慾望ヲ抱ケリト傳フ

「オホツク」ヤクツク「イルクイツ」鐵道

「エニセイ」河ロー「クラヌマルスク」鐵道

西伯利幹線ヨリ蒙支經由黃海ニ達スル鐵道

西伯利幹線ヨリセミンチエンスク「州」連絡スル鐵道

「カムチヤツク」方面ヨリ極東ノ各要地ニ通スル通信權

0709

之蓋シ西伯利ヲ以テノ經濟的戰場ト見做シ之カ征服
ヲ夢想セル施設ノ基礎配備ナラシ

3. 産業ニ関スル著眼

米人の全西伯利全滿蒙ニ注目ス然レトモ日露支三國
人の勢力最稀薄ナル富源即後貝加尔「レナ」オビ
「エ」セイ「レ」諸水系「バル」ハム「湖」畔及「アル」タイ「地方」ニ深
キ興味ヲ有シ知能低キ露人及土人ヲ操縦スルニ意ア
リ今各種産業ニ関スル一ニ事例ヲ列舉セハ次ノ如
シ

鑛産

西伯利ニ豊富ナル鑛産特ニ金産ニ重注シアレハ周知
ノ件タリ「ゼ」ヤ「レ」及「オ」ホツク「ハ」既ニ著手セラル

鐵道關聯ニ要地ノ炭鑛亦注目セツアリ蘇域ノ

如キ其一例ナリ

毛皮

西伯利北部ニ於ケル毛皮ハ現下独占ノ狀ヲ呈ス倍、
其範圍ヲ擴大シツアリ

農具

西伯利地方ニ農耕地多キヲトテ觀取ニ農具ノ供
給權ヲ獲得シ盛ニ這ヲ輸入シツアリ

林産

林業ノ著手ハ未タ顯著ナラサルモ起業ノ計畫
アリ

生活必需品

專ラ猶太人ト支那商人トヲ經由テ輸入シツアリ
要スルニ米人ハ斯クシテ倍ニ産業ノ進歩ヲ策シ當該

機關ハ尚工場倉庫試驗所等ノ設置ニ關シ計畫シツ

ツリ

● 4. 金融

知多政府ト金融ノ開始説ニ疑ハシ現在ハ哈市於
兀米支銀行ヲ最有力機關トス國家的組織ノ補
助金問題ハ未タ何等詮議セザルモノナキカ如シ

(終)

0712

軍務局

軍令部

大正十年七月十五日

竹内第六戦隊司令官

井出海軍次官殿

西比利艦隊三関元件

内偵元処依ハ公武裝解除ニシテ舊ノ露國

艦艇ニシテ目下小銃ノ外砲熳ノ裝備シアル

事及口終數量尤ノ通

砲艇一ノ系子ル 四糧二

水艦一ノ系子ル 四七耗一

0713

大正十年
軍務局二課

精養「パトロール」 四糧ニ、七五糧一

全 「マグネット」 四七糧一

全 「バタレー」 四七糧ニ、

全 「チャイメツ」 四七糧ニ、

（註）「パトロール」ハ武装解除時ハ長崎ニ在リ其
後密地飯着ニシテ降其ノ終放置セラレタルノ

ナリ

一、以上ノ砲煩ハ何時何処ニ於テ搭載セラレタルモノナ

クヤヲ審査ニセズ然レトモ今迄ニ彼等カ入手ニ得タル

場合ヲ数レハ

（一）武器押收ノ初期ニ於テハ兵器庫其ノ他ノ保

0714

管理ハ依然在來如ク個人ニ委セラリタ

リ

(四) 第九師團管理兵器庫ニ盜難事件アリタリ

(五) 本年五月ノ政變時白軍救ヘシカ爲海軍士

官ニシテ尾栓等兵器ニ具ヲ提供シテ救サレ

タルモノアリ

(六) 武装解除方直ノ敵ニ對スル程嚴格ナリタリ

ニ疑アリ其ノ結果規定境界外ニ於テ利用

セシカ爲艦内ニ豫備尾栓等ヲ隠匿シアリ

タルモノアリ

(七) 本年七月オカガ政略ノ際砲一門ヲ獲タリ

(ハ) 武裝解除ヲ受ケルハト云フ迄存在セリ

右ノ諸項中孰カニ依リテ前記ト明ク裝備シ得
タルト認ム

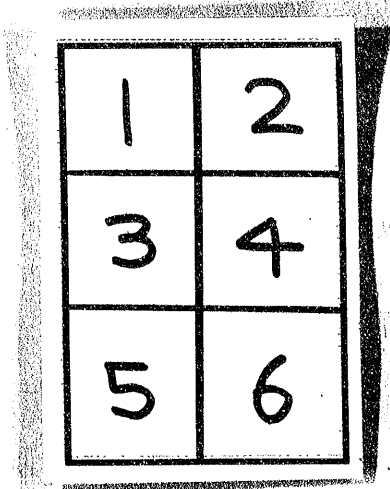
三、從來露海軍司令部外事課勤務ハミヤコラ大
尉我海軍對ニ連絡將校トシテ執務ニ相慮價
宜アリタル如ク先般外事課廢止ト共ニ該首長以
後ハ作戰課參謀ガルヲエニコ中佐直接外事ヲ
管掌スル旨通牒ニ接シタリ

右報告ス

〆

0716

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	 <p>A diagram showing a 2x3 grid of numbered boxes. The boxes are arranged in two rows and three columns. The top row contains boxes numbered 1 and 2. The middle row contains boxes numbered 3 and 4. The bottom row contains boxes numbered 5 and 6. The grid is enclosed in a larger rectangular frame with a thick border on the right side.</p>
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

0717
0718
0719
0720
0721
0722

圖要置配軍遣派潮涇

(ルナ於二日十月九年十正大)

備考

- 一、野戰防疫部、一部ハ哈尔滨市ニアリ
- 二、軍特務機關ハ滿洲、尼市、哈府、武市、滿洲里ニ位置ス
- 三、本要圖ノ符號左ノ如シ
(軍用並數字ハ部隊教ヲ日本數字各個綴示ス)

由 軍防疫部
 由 軍倉庫
 由 同馬廠
 由 同支廠
 由 同病院
 由 同分院
 由 陸軍病院
 由 臨時兵站部
 由 憲兵司令部
 由 憲兵隊本部
 由 工兵一小隊
 由 野砲兵中隊
 由 騎兵一小隊
 由 步兵一小隊
 由 步兵七中隊
 由 步兵中隊
 由 步兵七中隊

隊支ウーゴデロク
(佐中兵歩野平長)

11.D.



浦潮派遣軍配置要圖

(大正十年九月二十二日於ル)

極秘



備考

一 野戦防疫部一部ハ哈市ニアリ
 二 軍特務機關ハ浦潮、尼市、哈府、武市、

第

隊支ウーゴデロク
 (佐中兵歩野平長)

11.D.

支隊長
 Ⅲ/Ⅱ
 Ⅱ/Ⅱ
 Ⅳ/Ⅲ
 Ⅰ/Ⅱ

ホルツト
 Ⅰ
 Ⅱ
 △ 329

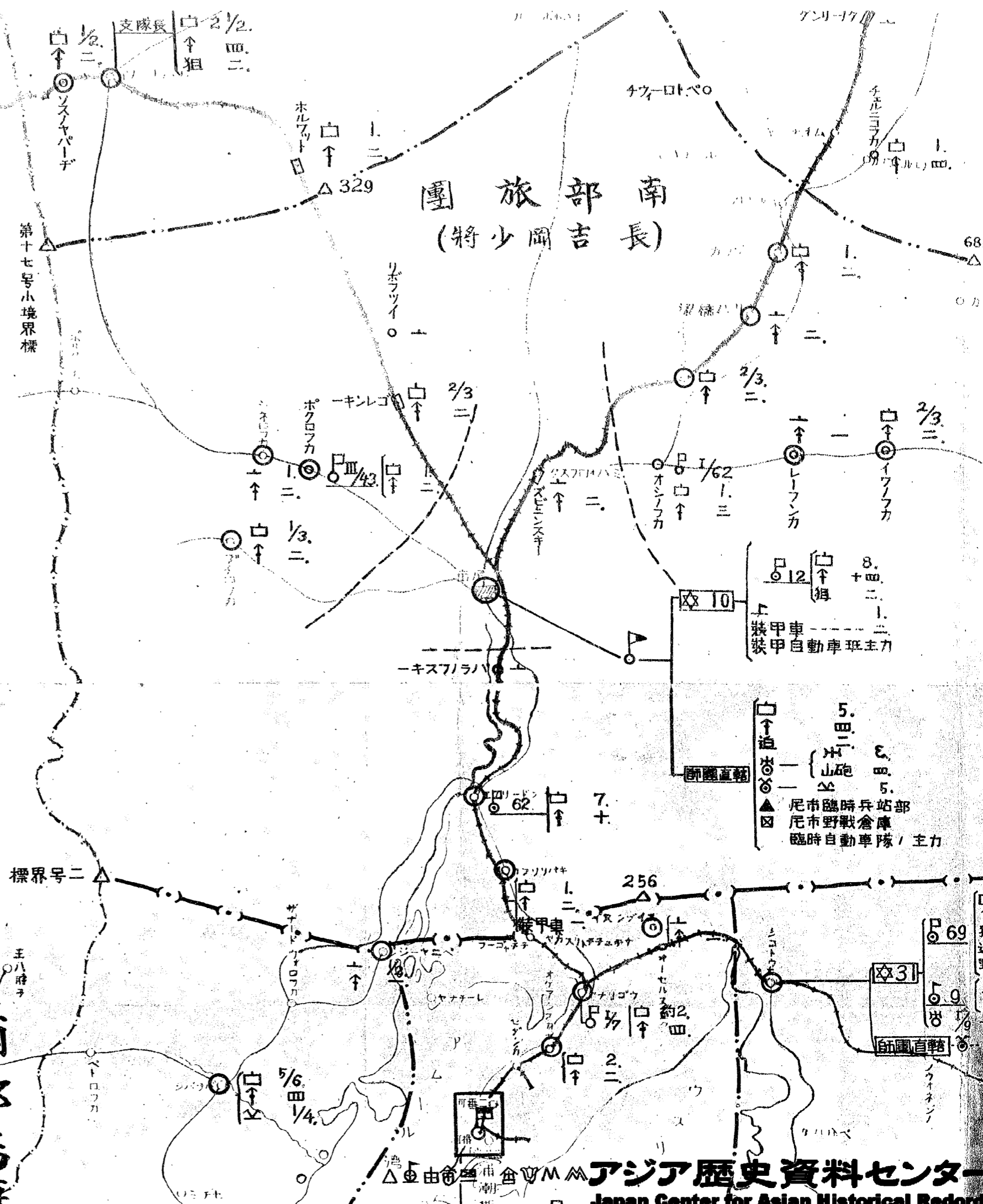
團旅部南
 (長)

北
 部
 長
 旅
 團
 少
 將

43 Ⅲ 7.
 Ⅳ 十八
 44 Ⅲ 5.
 Ⅳ 五.
 Ⅰ 狙 二.
 佛式野砲 二.
 山砲 二.
 Ⅱ Ⅲ 上 5.
 Ⅳ 四.
 Ⅱ/Ⅲ Ⅳ Ⅰ.
 三八十二榴 二.

第十師團軍區分			
師團直轄部隊	南部隊	北部隊	其他
步兵第四十三聯隊第五中隊(追擊砲二ヲ附ス) 步兵第五十三聯隊(大隊、常直接使用、得ル如準備アリ) 野砲兵第十一聯隊(第二大隊本部及第五中隊欠) 工兵第十一大隊(第一中隊ノ一小隊欠) 尼市臨時兵站部 スバスカヤ臨時兵站部(臨時自動車隊ノ一部ヲ附ス) 尼市野戰倉庫(臨時自動車隊ノ主力ヲ附ス)	長 步兵中佐 平野克己 步兵第十二聯隊第三大隊(機關銃六、担撃砲二ニ) 騎兵第十一聯隊第二中隊ノ一小隊 裝甲自動車二 裝甲自動車班ノ主力	長 少將 安藝 晋 步兵第三旅團(騎兵聯隊機關銃ヲ附シ) 步兵第五十三聯隊(第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百) 騎兵第十一聯隊(第二中隊ノ一小隊及機關銃四欠) 野砲兵第十一聯隊(第二大隊本部及第五中隊欠) 工兵第十一大隊(第一中隊ノ一小隊) 裝甲自動車一 裝甲自動車班ノ一部 航空班	第十七号小境界標

第九師團軍區分			
師團直轄部隊	西部隊	東部隊	其他
步兵第三十五聯隊(第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百) 野砲兵第九聯隊(第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百) 工兵第九大隊(第一中隊ノ一小隊) 臨時自動車隊(一部欠) 浦潮臨時兵站部 裝甲自動車班(機關銃三輪自動車上)	長 步兵少佐 乙田 鉄三郎 步兵第三十五聯隊第三大隊(機關銃八ヲ附ス) 工兵第九大隊(第一中隊ノ一小隊) 騎兵第九聯隊第二中隊ノ一小隊 工兵第九大隊第二中隊ノ一小隊	長 少將 白石 通則 步兵第三旅團(第三十五聯隊欠) 騎兵第九聯隊(第二中隊ノ一小隊欠) 野砲兵第九聯隊(第二大隊本部及第五中隊欠)	南部烏蘇 (長)



府、武市

第 北 部

長 少將 **安藝 晋**

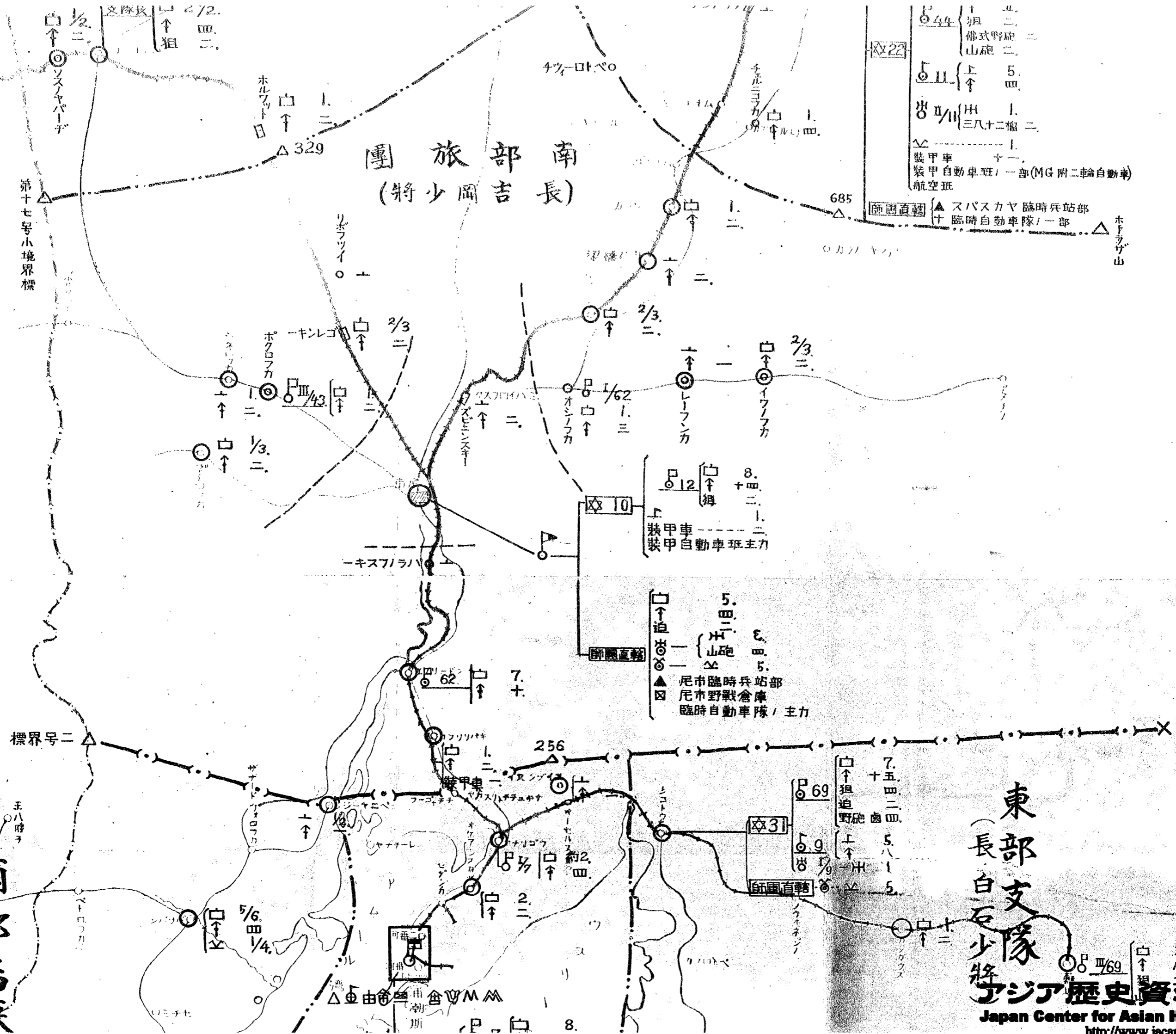
步兵第三旅團
 騎兵第十聯隊(第三中隊二小队及機關銃四欠)
 步兵第三旅團(第三中隊二小队及機關銃四欠)
 步兵第四旅團(第三中隊二小队及機關銃四欠)
 騎兵第十一聯隊(第三中隊二小队及機關銃四欠)

第 東 部

長 少將 **白石 通則**

步兵第三旅團(第三十五聯隊欠)
 騎兵第九聯隊(第三中隊二小队欠)

南部烏蘇



師團直轄

- ▲ スパスカヤ臨時兵站部
- 十 臨時自動車隊 / 一部
- 航空班

ホトカザ山

師團直轄

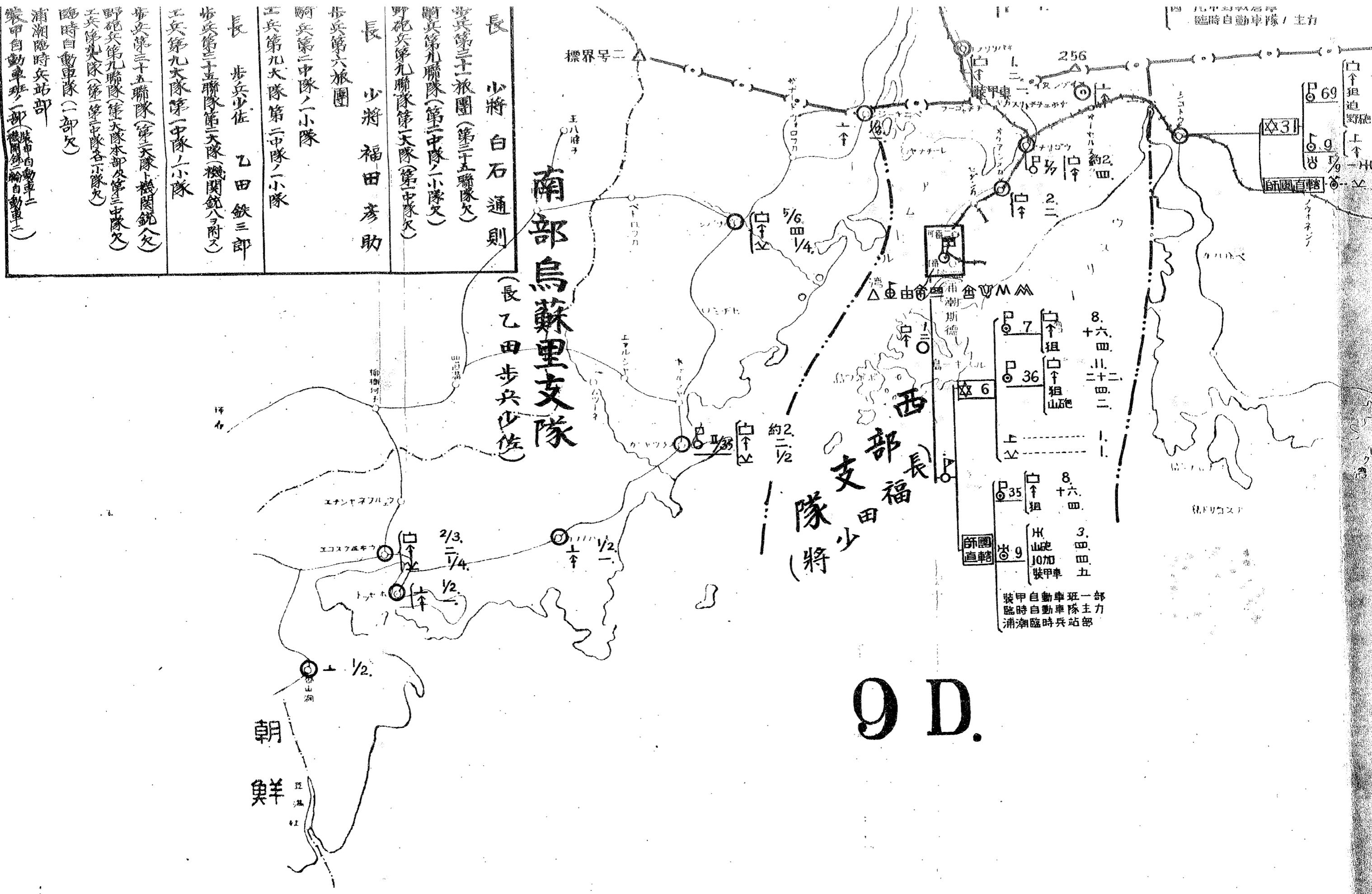
- ▲ 装甲車
- ▲ 装甲自動車班主力

師團直轄

- ▲ 尼市臨時兵站部
- ▲ 尼市野戦倉庫
- ▲ 臨時自動車隊 / 主力

師團直轄

- ▲ 野砲
- ▲ 砲



長 少將 白石通則
 歩兵第三十二旅團(第三十五聯隊欠)
 騎兵第九聯隊(第二中隊、一小隊欠)
 野砲兵第九聯隊(第一中隊、第二中隊欠)
 長 少將 福田彦助
 歩兵第六旅團
 騎兵第二中隊(一小隊)
 工兵第九大隊(第二中隊、一小隊)
 工兵第九大隊(第一中隊、一小隊)
 歩兵第三十五聯隊(第三大隊、機關銃八欠)
 野砲兵第九聯隊(第三大隊本部及第三中隊欠)
 工兵第九大隊(第二中隊、各一小隊欠)
 臨時自動車隊(一部欠)
 浦潮臨時兵站部
 裝甲自動車班(一部) (機關銃三輪自動車二)

南部烏蘇里支隊
 (長乙田步兵少佐)

西部
 支隊長 福田少將

8. 十六. 四. 十二. 二.
 7. 36
 6
 8. 十六. 四.
 3. 四. 五.
 9
 山砲 10加 裝甲車
 裝甲自動車班一部
 臨時自動車隊主力
 浦潮臨時兵站部

9 D.

長 少將 白石通則 (第三十五聯隊欠)

南部烏蘇里支隊

長 少將 白石通則

(長乙田歩兵少佐)

臨時自動車隊 / 主力

ムレハウ付河上シシナンチ河ノ合流處
鐵城北方八。吉米

東部支隊
(長 白石少將)

西部支隊長
福田少將

標界号二

256

F 69

7. 五. 四. 二. 四.

上. 八.

F 69

3. 八. 二. 三.

8. 六. 四. 二. 二.

上. 一.

8. 六. 四.

上. 一.

8. 六. 四.

上. 一.

3. 四. 四. 五.

上. 一.

上. 一.

装甲自動車班一部
臨時自動車隊主力
滿洲臨時兵站部

9 D.

極秘

海防考

第二課 第一課

23

膠州堪察加方面行動線定表

自一九〇九年六月
至一九〇九年十月

主要作業記

午後八時出港 京連八港

0723

不

21

二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九	〇八	〇七	〇六	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一	
金	水	水	火	月	日	土	金	水	水	火	月	日	土	曜	新	在	地								

國後水
通津近

浪

船行中

バトロバロ
ワスク

第九艦隊司令官長官給

6

バトロバロワスク入港

津島に帆立船が出入りバトロ
ワスクは何時か

此中休年九月



一	一	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	三	二	二	二	二	二	二
月	日	五	金	水	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	
下口口口 クスク				臨行中		測量地												
右	右	第10号地 石炭採掘			右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	測量地	
		下口口口口口口口			第8号地 特出炭												測量地	

0.724



一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	八	七	六	五	四	三	二	一	九	八	七	六	五	四	三	二
木	水	火	月	日	土	金	水	水	火	月	日	土	金	木	水	火

龍行中

龍行中

龍行中

辰水神是及辰國平入

午亦八時出港系連八運

辰立八時

午亦八時出港系連八運

0725

一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
日	六	金	木	水	火	月	日	五	金	木	水	火	月	日	五	金	木	水	火	月	日

下
入
入

出
入
入

入
入
入

正水補
手

測量
帳
集

測量
班
實
收
簿

測量
班
實
收
簿
及
全
用
材
料
帳
簿

測量
班
實
收
簿
及
全
用
材
料
帳
簿

測量
班
實
收
簿

0726

九																	
一	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一
水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日

水
火
月
日
土
金
木
水
火
月
日
土
金
木
水
火
月
日

出
海
附
勤
近

測量作業

測量
船
直
水
上
ク
ロ
ソ
キ
一
海
出
港
船
連
八
運

測量
船
直
水
上
ク
ロ
ソ
キ
一
海
出
港
船
連
八
運

測量
船
直
水
上
ク
ロ
ソ
キ
一
海
出
港
船
連
八
運

0727

一	一	一	一	一	一	一	一	一	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇
土	金	木	水	火	土	金	木	水	火	土	金	木	水	火	土	金	木	水	火	土	金	木	水	火	土	金	木	水
小	航	根	航	航					出					附	上					ヤ								
博	行	室	中	行					動					島	手					シ								
																				カ								
		炭							水路																			
		水							探																			
		補							究																			
		元							測																			
									量																			
									原																			
									速																			
									入																			
									港																			
									者																			
小																												
博																												
入																												
港																												

0728

				一													
				一	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一	一
五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
				横須賀				航行中				函館		航行中		小樽	
								炭水補充 俄國洋入								炭水補充	
午亦八時出港 赤坂入港				東京見文子				横須賀入港				午亦八時出港 赤坂入港				午亦八時出港 赤坂入港	

0729

之	水	航行中
七	木	
八	金	吳

土佐沖測量

吳入港

備考

一 本行動測量班員ノ没職ノ第九駆逐隊ノ行動線是ヲ参考シテ豫定セルモノナリ

二 天候其ノ他ノ都合ニ依リテクロッキノ測量班員能ク九ノ直ニ沿岸ノ海峡ニ測量ニ從事ス

三 本行動中ノ通信連絡左ノ通

本船—(ハト口ハツロスタ)—(横濱)海岸局—(落石)海岸局—(大船)橋

四 堪察加沿岸ノ地ニ別紙ノ如ク依リテ已ニ分ル

五 堪察加ノ地名ハ海圖第ニ七號ニ依ル

六 根室ニ於ケル石炭ヲ搭載スル第九駆逐隊ノ石炭供給事情詳ニ限リ

測量班員後ヲ護シテ測量ノ關係上七月一日止ルニ下テ止ルニシ

七 石炭ノ都合依リ九月十日日ノ根室岸邊ヲ取止ルニ下テ止ルニシ

0730

